

# ORACLE MASTER Platinumの歴代3バージョン “第1号認定者”が語るOracle Database 11gの魅力



株式会社日立システムアンドサービス  
プラットフォームソリューション本部  
アプリケーションプラットフォームソリューション部  
技師  
竹村浩二氏

——まずは現在のご担当業務について、お聞かせください。

**竹村浩二氏(以下、竹村)** Oracle Databaseを中心としたシステムの提案から、Oracle RAC(Oracle Real Application Clusters)を用いたHA(高可用性)環境の設計・構築、データ移行まで、あらゆるプロセスにおけるコンサルティングや技術支援を担当しています。

——フィールドの最前線に立つエンジニアの眼から見て、Oracle Database 11gにはどんな魅力がありますか。

**竹村** 旧バージョンからの改善点という意味では、さまざまなパラメータの設定が簡素化され、“使うこと”に集中できる製品に近づいたことが大きいと思います。たとえば、従来ではプログラムごとに個別にメモリを設定しなければならなかったのが、自動メモリ管理の機能によって最適な割当てが可能となりました。

また、Oracle Database 11gで新たに具現化されたものとして、「Oracle Active Data Guard」オプションにも注目しています。バックアップサイト側にある災害対策用のOracle Databaseをただ待機させておくのではなく、日常業務でも有効活用できるようになるというメリットから、同オプションは多くのお客様からも高

## HitachiSystems | 株式会社日立システムアンドサービス

データベース・エンジニアとしての実力を証明する認定資格制度「ORACLE MASTER」のなかでも、その最高峰となる「ORACLE MASTER Platinum」。Oracle Database 9iから10g、そして11gという歴代の3バージョンについて、それぞれ一番乗りで同資格を取得してきたのが、日立システムアンドサービスの竹村浩二氏だ。フィールドの最前線で接するOracle Database 11gの魅力と、ORACLE MASTER Platinumが竹村氏の業務にどのように役立っているのか、話をうかがった。

い評価をいただいています。

——実際にOracle Database 11gを提案する機会も増えてきているのでしょうか。

**竹村** 技術的にある程度成熟した、安定した製品を使いたいという意図から、これまでは様子を眺めていたお客様が多かったのが実情でした。しかし、Oracle Database 11g R2が登場したことで、いよいよ導入や検討に向けて動き始めるのではないかと感じています。

——Oracle Database 9iから10g、そして11gという3つのバージョンについて、それぞれ一番乗りでPlatinum資格を取得されてきましたが、数多くの案件に携わるうえで、ORACLE MASTER Platinumはどのように活かされているのでしょうか。

**竹村** やはり第1号認定者というインパクトは大きいようで、お客様にも高い関心を持っていただいています。それが、後々の信頼につながっているとも感じています。

ただ、時代とともにお客様の見方も変わってきます。Oracle Databaseを扱うプロフェッショナルとして、その資格を持っているのは“当然”として受け止められつつあるのです。

——そうした変化の中で、竹村さん自身にとってのORACLE MASTER Platinumの位置づけも変わってきているのでしょうか。

**竹村** そうですね。Oracle Database 9iの頃は、自分自身のスキルレベルを確認し、目に見える“カタチ”にしたいという意識が強かったように思います。それが現在では、日立システムアンドサービス、ひいては日立グループにおけるOracleビジネスを引っ張っていく立場となり、対外的なメッセージアウトを担っていくためにも率先して資格を取得し、Oracle Database

11gの普及のために役立てていきたいと考えるようになりました。

——ORACLE MASTER Platinumの資格取得に際して学んだことが、実務でどのように役立っているのでしょうか。

**竹村** 私にとっては資格を取ることが目的ではなく、試験を1つのきっかけとして、Oracle Databaseについて万遍なく幅広い知識と技術を身につけることに視点を置いてきました。その結果として、自分の“引き出し”を増やすことができたように思います。

たとえば、お客様から何らかの課題をいただいたとき、いったん会社に持ち帰って回答を返すエンジニアはたくさんいます。しかし、その場で即答し、問題を解決できるエンジニアはあまりいません。私に求められているのは、そういう役割にほかならず、そのためにも幅広い知識を持っていることが不可欠であると実感しています。

——今後の目標についてお聞かせください。

**竹村** Oracle Databaseだけにとどまらず、サーバやストレージ、OSなど、さまざまな周辺技術にもスキルの幅を広げ、インフラストラクチャ全体を提案・設計できるエンジニアになりたいと思います。

また、これまでは自らがさまざまな案件の現場に立つことにやりがいを感じてきましたが、今後はマネジメント的な立場からリーダーシップを発揮し、後進の育成にも貢献していかなければならないと考えています。

### 株式会社日立システムアンドサービス

1978年設立。情報分野に関する信頼性の高い技術力を背景に金融・社会・製造・流通分野で全国にシステムインテグレーションサービスを展開。